

全国飲食店開業ランキング レポート ver7

～2025年7月～9月・過去3年間比較～

<調査方法>

行政からの開業情報をもとに、
Review独自のクレンジングをおこなったデータより算出

Contents

株式会社Reviewは「人」と「IT」のチカラを組み合わせ、全国の店舗データおよび法人データを独自で、収集・整備・提供しているデータプロバイダーです。

日々データを更新、圧倒的な網羅性とリアルタイム性がございます。
そんな弊社ならではの、全国の飲食店に関する調査結果を発表いたします。

全国飲食店開業ランキング 2025年7月～9月

飲食店開業全国TOP5/2025年7月～9月	…P4
全国飲食店開業ランキング	…P5
全国飲食店開業ランキング/2023年～2025年	…P6
【過去3年比較】 地方で広がる新たな飲食市場	…P7～8

全国飲食店ジャンル別開業ランキング 2025年7月～9月

飲食店ジャンル別開業ランキング	…P10
ジャンル別トップ5の動向分析	…P11～12
【番外編】ジャンル別開業ランキング 『各国料理』編	…P13
【コラム】 巷で見かける“あのスイーツ”は、なぜ人気なのか	…P14

全国飲食店開業ランキング/月別比較

【月別比較】都道府県別 飲食店開業数	…P16
2025年夏、開業の月次変動に見る地域特性	…P17～18

全国飲食店開業レポート ver7 まとめ

“回復”と“選別”の先にある、新しい飲食市場	…P20～21
------------------------	---------



全国飲食店開業ランキング
2025年7月～9月

飲食店開業全国TOP5/2025年7月～9月



2025年7～9月期の全国の飲食店開業動向では、前年から緩やかな回復が見られた一方、地域ごとの差がより鮮明に表れる結果となりました。主要都市圏が引き続き高水準を維持する中、地方エリアでも存在感を高める地域が見られています。

物価上昇や人材不足、消費行動の変化などを背景に、飲食業界では「どこでも出店できる」環境から、「エリアを選別して出店する」傾向が強まりつつあります。本レポートでは、2025年7～9月の全国飲食店開業データをもとに、地域別・月別・ジャンル別の動向を多角的に分析し、現在の市場変化を読み解いていきます。

2025年7月～9月の全国飲食店開業数ランキングを発表いたします。
トップ5には、以下の都道府県がランクインしています。



1位 東京都(2,079件)
多様な食文化と高い情報感度を背景に新業態の創出が続く一方、近年は出店コストの上昇や競争激化により、出店の選別が進みつつある。



2位 大阪府(1,256件)
繁華街を中心に飲食店の集積が進み、回転の速い市場環境の中で新規参入が継続的に生まれている。



3位 愛知県(882件)
安定した人口基盤とビジネス需要を背景に堅調な飲食需要が存在。名古屋を中心に独自の食文化が根付き、地域特性を活かした業態展開が進んでいる。



4位 福岡県(837件)
若年層人口と観光需要がともに高い。コンパクトシティとしての利便性もあり、飲食店の回遊性が高く、新規出店が活発に行われている。



5位 北海道(776件)
札幌を中心に観光需要と地域需要が共存。四季を通じた観光客の流入に加え、地域食材の豊富さから、多様な飲食業態が成立しやすい環境が整っている。

全国飲食店開業ランキング

2025年7月～9月の、全国の飲食店開業数ランキングは以下のような結果となりました。

2025年7月～9月 全国開業件数

14,314件

飲食 / 2025年7月～9月			
都道府県	開業数		
ALL	14314	24 岐阜県	164
1 東京都	2079	25 香川県	162
2 大阪府	1256	26 群馬県	157
3 愛知県	882	27 宮崎県	153
4 福岡県	837	28 長野県	145
5 北海道	776	29 長崎県	139
6 神奈川県	678	30 福島県	135
7 兵庫県	622	31 青森県	133
8 千葉県	524	32 石川県	132
9 埼玉県	480	33 愛媛県	126
10 沖縄県	396	34 大分県	125
11 京都府	390	35 滋賀県	124
12 静岡県	318	36 奈良県	114
13 茨城県	293	37 和歌山県	111
14 鹿児島県	264	38 高知県	93
15 広島県	257	39 山梨県	90
16 熊本県	257	40 徳島県	82
17 宮城県	243	41 富山県	74
18 栃木県	212	42 山形県	70
19 新潟県	208	43 佐賀県	68
20 岡山県	208	44 福井県	64
21 三重県	183	45 秋田県	61
22 岩手県	179	46 鳥取県	44
23 山口県	167	47 島根県	39

2025年7～9月期の飲食業新規開業数は、東京都・大阪府・愛知県・福岡県・北海道といった主要都市圏を中心に引き続き集積が見られました。

一方で全国合計では前年からわずかな回復にとどまり、依然として過去水準には届かない状況が続いています。本期間は、出店環境の厳しさを背景にエリアや立地の選別が一層進み、量的拡大よりも質を重視した出店戦略への移行が進む局面となりました。

全国飲食店開業ランキング/2023年～2025年

次に、2023年～2025年の3年間における、7月～9月の全国の飲食店開業数を比較してみました。以下のような結果となりました。

※ランキングの順位は2025年に基づきます。

飲食 / 7月～9月開業数			
都道府県	2023年	2024年	2025年
ALL	15929	14055	14314
24 岐阜県	151	166	164
1 東京都	2475	1922	2079
25 香川県	135	115	162
2 大阪府	1448	1437	1256
26 群馬県	199	151	157
3 愛知県	834	919	882
27 宮崎県	148	149	153
4 福岡県	865	888	837
28 長野県	177	127	145
5 北海道	655	747	776
29 長崎県	136	120	139
6 神奈川県	769	689	678
30 福島県	186	170	135
7 兵庫県	897	617	622
31 青森県	246	124	133
8 千葉県	674	535	524
32 石川県	135	151	132
9 埼玉県	462	456	480
33 愛媛県	134	139	126
10 沖縄県	395	453	396
34 大分県	148	132	125
11 京都府	427	352	390
35 滋賀県	117	98	124
12 静岡県	346	348	318
36 奈良県	132	110	114
13 茨城県	289	255	293
37 和歌山県	124	103	111
14 鹿児島県	238	221	264
38 高知県	88	102	93
15 広島県	313	275	257
39 山梨県	87	81	90
16 熊本県	219	177	257
40 徳島県	71	72	82
17 宮城県	425	217	243
41 富山県	86	93	74
18 栃木県	213	193	212
42 山形県	101	66	70
19 新潟県	204	163	208
43 佐賀県	72	74	68
20 岡山県	259	158	208
44 福井県	61	65	64
21 三重県	190	146	183
45 秋田県	87	71	61
22 岩手県	197	174	179
46 鳥取県	54	29	44
23 山口県	184	150	167
47 島根県	76	55	39

過去3年間の7～9月期における飲食業新規開業数の推移を見ると、2023年をピークに2024年は大きく減少し、2025年はわずかに持ち直す動きが見られました。

ランキング上位は主要都市圏が引き続き占める一方で、各都市の回復度合いには差が生じています。特に大阪府の減少が目立つ一方、北海道や一部地方エリアでは増加が見られ、出店の重心が徐々に分散しつつあることがうかがえます。全体としては、市場の回復は限定的であり、エリアごとの選別が進行する中で構造変化が続く局面にあるといえます。

【過去3年比較】 地方で広がる新たな飲食市場

過去3年間の7～9月期の開業ランキングを見ると、全国の飲食業新規開業数は2024年に大きく減少した後、2025年はわずかに回復する動きが見られました。一方で、地域ごとの回復度合いには差が生じており、主要都市圏と地方エリアで異なる傾向が表れています。開業市場では、出店エリアを慎重に選別する動きが進んでいる状況がうかがえます。

以下、4つのポイントを詳しく見ていきましょう。

① 全国的な回復は限定的

7～9月期の全国の飲食業新規開業数は、2023年の15,929件から2024年には14,055件まで減少し、2025年は14,314件と微増となりました。前年からは回復したものの、依然として2023年の水準には届いておらず、業界全体としては本格的な回復局面には至っていない状況です。

物価上昇や人件費負担などを背景に、出店判断がより慎重になっている可能性が考えられます。

② 主要都市圏でも回復度合いに差

主要都市圏では引き続き高い開業数を維持する一方、地域ごとに回復度合いの違いが見られました。特に東京都と大阪府では対照的な推移となっています。

東京都は2024年に1,922件まで減少した後、2025年は2,079件まで回復しました。一方、大阪府は2023年の1,448件から2025年には1,256件まで減少しており、回復傾向は見られていません。愛知県や福岡県は比較的安定した推移を維持していることから、**主要都市圏の中でも市場環境や出店需要に差が生じている**ことがうかがえます。

③ 出店エリアの選別が進行

全国一律で開業数が増加している状況ではなく、地域によって明暗が分かれる結果となりました。出店エリアの選別がより進んでいる様子が見えます。

茨城県・熊本県・鹿児島県など前年を上回る地域がある一方、大阪府・福島県・千葉県など減少が続く地域も見られました。開業数の推移には地域差が拡大しており、人口動態や再開発、産業集積などエリア特性を踏まえた出店判断が重要になっていると考えられます。飲食店開業は、全国的な一律回復ではなく、地域ごとの市場環境に左右される傾向が強まっている状況です。

【過去3年比較】 地方で広がる新たな飲食市場

④ 地方エリアで存在感を高める地域が出現

要都市圏が上位を維持する一方で、一部地方エリアにおいて開業数の増加が目立つ結果となりました。特に**熊本県では前年を大きく上回る開業数**となり、地方都市における新たな出店需要の広がりがうかがえます。

熊本県の2025年7～9月期の飲食業新規開業数は257件となり、前年の177件から大幅に増加しました。中でも8月は106件と単月で突出した件数となっており、全国的に見ても特徴的な伸びを示しています。背景には、TSMC(JASM)の熊本進出を起点とした半導体関連企業の集積や人口流入、周辺地域での商業開発活発化などが影響している可能性があります。

また、熊本県に加えて鹿児島県でも開業数が221件から264件へ増加しており、九州エリア全体で飲食店開業の活発化が見られました。さらに、茨城県では255件から293件へ増加するなど、首都圏周辺エリアでも開業数の回復が確認されています。

これらの動向から、2025年は従来の大都市集中型だけでなく、地方中核都市や周辺エリアへと出店エリアが広がりつつある状況がうかがえます。




「JASM」… TSMCの熊本進出が与える影響とは？

「Japan Advanced Semiconductor Manufacturing株式会社」(JASM)は、**専門ICファウンドリビジネスモデルの先駆者であるTaiwan Semiconductor Manufacturing Company Limited(TSMC)が過半数を出資し、熊本県に設立した子会社**です。

特に注目されるのは、工場単体の経済効果にとどまらず、**周辺地域にまで波及する“人口流入型”の経済成長が起きている点**です。県外からの転勤者や技術者、その家族世帯の移住が進んでおり、住宅需要の増加によるマンション・賃貸開発、商業施設の整備、交通インフラの強化など、**生活基盤への投資も活発化**しています。実際に、菊陽町周辺では地価上昇や住宅不足が話題となるなど、地域経済へのインパクトは不動産市場にも及んでいます。

このように、半導体産業を起点とした産業集積と人口流入が同時に進行しており、それが飲食業の新規開業増加を後押ししている可能性があります。従来、地方都市の飲食市場は人口減少の影響を受けやすいとされてきましたが、特定産業の大型投資を契機として、局所的に強い消費市場が形成されるケースとして注目されます。



全国飲食店ジャンル別開業ランキング
2025年7月～9月

飲食店ジャンル別開業ランキング

2025年7月から9月に開業した飲食店(全国14,314件)をジャンル別に分析した結果、次のような結果となりました。

飲食 / 2025年7月～9月	
ジャンル	開業数
ALL	14314
1 カフェ・喫茶店	1301
2 飲み屋・居酒屋	1300
3 バー	899
4 お菓子・スイーツ	582
5 ラーメン	525
6 各国料理	487
7 専門料理店	408
8 一般レストラン	318
9 和食・郷土料理	305
10 焼肉	271
11 中華料理	267
12 キャバレー・ナイトクラブ・ラウンジ	240
13 カレー店	179
14 焼き鳥	160
15 寿司店	141
16 ファーストフード	128
17 丼・定食	108
18 麺類(そば)	107
19 肉調理店(焼肉・焼鳥・ステーキ除く)	105
20 麺類(うどん)	105
21 お好み焼き・たこ焼き・焼きそば等	100
22 鍋料理	50
23 ステーキ	31
24 分類できない飲食店	11
25 料亭	1
26 その他飲食店	6185

【ジャンル分類について注釈】

Review飲食店データでは、総務省が定める「日本標準産業分類」に基づいて業種分類を行っています。同分類においては、「中華料理」と「各国料理」はそれぞれ別の分類として定義されています。そのため、今回の集計における「各国料理」には、独立した分類である「中華料理」は含まれていません。

ジャンル別トップ5の動向分析

本ランキングでは『カフェ・喫茶店』が1,301件、『飲み屋・居酒屋』が1,300件と、両業態がほぼ同規模で全国トップとなりました。

また、前回(2025年4~6月期)まで上位だった『ラーメン』を上回り、『お菓子・スイーツ』が4位に浮上している点も特徴的です。

今回の結果から、専門性や目的性を持った業態への出店がより強まっている傾向がうかがえます。



1位:カフェ・喫茶店(1,301件)

近年は“第三の居場所”としての需要が高まっており、単なる飲食利用だけでなく、仕事・勉強・コミュニティ形成など多目的利用が進んでいます。特にリモートワークの定着やフリーランス人口の増加を背景に、長時間滞在型・作業型カフェへの需要が継続している点が特徴です。

また、近年はSNSを意識した空間デザインや、韓国風・無機質系などコンセプト特化型店舗の増加も目立っています。一方で、コーヒー豆価格の高騰や人件費上昇などコスト負担は強まっており、小規模・省人化モデルへのシフトも進んでいると考えられます。



2位:飲み屋・居酒屋(1,300件)

トップの『カフェ・喫茶店』に並ぶ水準で推移しました。コロナ禍以降、大人数宴会需要は縮小傾向にある一方、少人数利用や日常使い需要は回復しており、居酒屋市場は“再編フェーズ”に入っているとみられます。

近年は、低価格路線だけでなく、地域食材や専門性を打ち出した“ネオ居酒屋”業態の増加も目立っています。また、インバウンド需要回復によって都市部繁華街では夜間需要も戻りつつあります。一方で、深夜人材不足やアルコール消費量の減少といった構造課題は継続しており、営業時間・席数・オペレーションを最適化した小規模店舗が増えている点も特徴です。

ジャンル別トップ5の動向分析



3位:バー(899件)

開業数は高水準を維持し、夜間需要の回復が進んでいることがうかがえます。近年は“二次会利用”だけではなく、一人利用や少人数利用を前提としたカジュアルバー、スタンディングバーなど多様な業態が増加しています。

特に都市部では、クラフトジン・ウイスキー・ナチュラルワインなど専門性を打ち出した店舗が増えており、“体験消費”としての価値が重視される傾向が強まっています。また、訪日外国人観光客の増加によって、ナイトタイム需要の回復も追い風となっています。一方で、深夜営業コストや人材確保の難しさから、席数を抑えた小規模出店が中心になっていると考えられます。



4位:お菓子・スイーツ(582件)

人気の『ラーメン』業態を上回って4位に浮上しました。近年は“ご褒美消費”や“プチ贅沢需要”の拡大に加え、SNS映えを意識したビジュアル重視の商品展開が若年層を中心に支持を集めています。

また、テイクアウト主体で小規模出店が可能な点も、新規参入を後押ししている要因と考えられます。特に韓国スイーツやドーナツ専門店、焼き菓子専門店など、単品特化型の業態が増加しており、“専門店化”の流れが強まっています。一方で、原材料価格の高騰や競争激化も進んでおり、商品力・ブランド力による差別化がより重要になっている状況です。



5位:ラーメン(525件)

依然として高い開業数を維持しています。比較的少人数でも運営しやすく、専門店としてブランド化しやすい点から、新規参入が継続していると考えられます。

一方で、近年は原材料費や光熱費の上昇が直撃している業態でもあり、特にスープ炊き込みに伴うエネルギーコスト負担は大きな課題となっています。そのため、近年は“淡麗系”“油そば”“つけ麺特化”など、オペレーション効率を重視した業態も増加しています。また、インバウンド需要回復により、日本食コンテンツとしての人気再び高まっている点も追い風となっています。

【番外編】ジャンル別開業ランキング 『各国料理』編

2023～2025年の7月から9月に開業した『各国料理』の飲食店について、国別のランキングも調べてみました。

次のような結果となりました。

各国料理 / 2025年7月～9月			各国料理 / 2024年7月～9月			各国料理 / 2023年7月～9月		
	ジャンル	開業数		ジャンル	開業数		ジャンル	開業数
1	イタリア料理	138	1	イタリア料理	189	1	イタリア料理	171
2	インド料理	76	2	韓国料理	88	2	韓国料理	141
3	韓国料理	72	3	インド料理	86	3	インド料理	57
4	フランス料理	44	4	ベトナム料理	45	4	フランス料理	51
5	アジア料理	41	5	フランス料理	36	5	ベトナム料理	46
6	ベトナム料理	34	6	アジア料理	36	6	アジア・エスニック料理	34
7	タイ料理	23	7	タイ料理	30	7	タイ料理	30
8	ネパール料理	19	8	ネパール料理	24	8	スリランカ料理	19
9	ハワイ料理	9	9	スリランカ料理	13	9	東南アジア料理	17
10	スペイン料理	9	10	スペイン料理	11	10	ネパール料理	10

出典:Review調べ

各国料理ジャンルでは、「**イタリア料理**」が**2023年から3年連続で1位を維持**しました。

「イタリア料理」はパスタ・ピザを中心とした日常利用のしやすさに加え、カフェ業態との親和性やランチ需要の強さもあり、安定した人気を保っていると考えられます。

近年は原材料価格高騰の影響を受けながらも、小規模店舗や専門特化型店舗として出店しやすい点も、継続的な開業につながっている可能性があります。

一方で、2025年は「インド料理」が2位に浮上し、これまで上位だった「韓国料理」を上回る結果となりました。背景には、物価上昇が続く中で“コストパフォーマンスの高い外食”への需要が強まっていることが考えられます。

インド料理は比較的低価格帯で満足感を得やすく、ランチ需要とも相性が良いことから、日常利用型の外食として支持を広げている可能性があります。

韓国料理は2023年・2024年の2位から2025年は3位へ順位を下げたものの、依然として高い人気を維持しています。韓国カルチャー人気やSNS映え需要を背景に成長してきたジャンルですが、近年は“ブーム消費”から“定番化”へ移行しつつあるとも考えられます。

さらに、ランキング全体を見ると、「ベトナム料理」「タイ料理」「ネパール料理」などアジア圏の料理がTOP10の多くを占めました。コロナ後の訪日外国人観光客の回復に加え、日本国内でも海外料理への抵抗感が低下しており、エスニック料理が日常外食の選択肢として定着している状況がうかがえます。特に都市部では、外国人コミュニティの形成やインバウンド需要を背景に、多国籍料理エリアが拡大する動きも見られています。

【コラム】 巷で見かける“あのスイーツ”は、なぜ人気なのか

日本でトレンド化したスイーツとは？

2024年以降のスイーツトレンドは、「ヘルシー」と「食感体験」の二極化を軸に拡大しています。アサイーボウルやグreekヨーグルトに代表される“ノーギルティ系”が支持を集める一方、生ドーナツやドバイチョコレートのような“ASMR・映え系”スイーツもSNSを起点に急成長。本コラムでは、話題のスイーツをピックアップして紹介します。

■ 大手ドーナツ専門店でも予約殺到『生ドーナツ』

生ドーナツは、“ふわしゅわ”と表現されるやわらかな口どけが特徴の新感覚ドーナツとして、2024年以降のスイーツトレンドを代表する存在となりました。火付け役となった「I’ m donut?」をはじめ、「MILK DO dore iku?」などの専門店が全国的に人気を拡大。さらに、「ハートブレッドアンティーク」の「ふわとろ生ドーナツ」やなど既存チェーンでも関連商品が登場し、“生食感”というキーワードがコンビニ・ベーカリー業界全体へ広がっています。



■ スーパーフードの再台頭『アサイーボウル』

アサイーボウルは、アサイーにフルーツやグラノーラを合わせたハワイ発のスイーツで、2024年以降、日本でも再び注目を集めています。美容や健康を意識しながら楽しめる“ヘルシー系スイーツ”として支持を広げ、カラフルな見た目やライフスタイル感のある写真がSNSでも話題となりました。専門店の増加に加え、自宅で手軽に楽しめる冷凍商品やレシピも広がっており、いまやZ世代を中心に定番化しつつある人気スイーツのひとつです。

■ 本家は入手困難のため手作りも?! 『ドバイチョコレート』

ドバイチョコレートは、ピスタチオクリームと細麺状の「カダイフ」を組み合わせた、中東発のチョコレートスイーツです。2024年後半から日本でもSNSを中心に話題となり、ザクザクとした独特の食感や、割った瞬間の断面映えが“ASMR系スイーツ”として人気を集めました。火付け役となったドバイの「FIX Dessert Chocolatier」は現地中心の販売で入手困難なことでも知られ、その希少性自体が話題を後押ししています。一方、日本国内ではリンツの「ドバイスタイルチョコレート」をはじめとした再現・アレンジ商品が広がると同時に、代用品を利用した手作りレシピも増えています。



全国飲食店開業ランキング/月別比較



【月別比較】都道府県別 飲食店開業数

次に、2025年7月～9月にかけての月別開業データを比較してみましょう。

都道府県	2025年7月 開業数	2025年8月 開業数	2025年9月 開業数	合計 開業数
ALL	5361	4270	4683	14314
1 東京都	746	622	711	2079
2 大阪府	461	386	409	1256
3 愛知県	313	273	296	882
4 福岡県	282	232	323	837
5 北海道	278	249	249	776
6 神奈川県	288	189	201	678
7 兵庫県	245	176	201	622
8 千葉県	180	167	177	524
9 埼玉県	178	154	148	480
10 沖縄県	147	122	127	396
11 京都府	146	113	131	390
12 静岡県	100	89	129	318
13 茨城県	114	87	92	293
14 鹿児島県	74	120	70	264
15 広島県	101	69	87	257
16 熊本県	84	106	67	257
17 宮城県	95	60	88	243
18 栃木県	93	56	63	212
19 新潟県	76	46	86	208
20 岡山県	109	45	54	208
21 三重県	74	67	42	183
22 岩手県	82	49	48	179
23 山口県	68	49	50	167
24 岐阜県	56	56	52	164
25 香川県	44	34	84	162
26 群馬県	68	44	45	157
27 宮崎県	58	44	51	153
28 長野県	59	36	50	145
29 長崎県	60	38	41	139
30 福島県	72	31	32	135
31 青森県	63	35	35	133
32 石川県	47	40	45	132
33 愛媛県	51	35	40	126
34 大分県	48	34	43	125
35 滋賀県	51	38	35	124
36 奈良県	48	23	43	114
37 和歌山県	40	39	32	111
38 高知県	33	31	29	93
39 山梨県	37	27	26	90
40 徳島県	39	26	17	82
41 富山県	29	27	18	74
42 山形県	24	22	24	70
43 佐賀県	26	21	21	68
44 福井県	18	19	27	64
45 秋田県	29	14	18	61
46 鳥取県	15	16	13	44
47 島根県	12	14	13	39

※合計の開業数が多い都道府県順に表示しております。

2025年夏、開業の月次変動に見る地域特性

2025年7～9月期の月別開業データを見ると、都市部と地方エリアで異なる推移傾向が見られました。東京都・大阪府など主要都市圏では各月を通じて一定水準の開業数が維持された一方、一部地方エリアでは特定月に開業が集中する動きも確認されています。月次データからは、地域ごとに異なる出店構造が存在している可能性がうかがえます。

次から、「都市部」と「地方」において考えられる、異なる開業背景を詳しく見ていきましょう。

都市部は“常時需要型”として安定推移

人口・観光・ビジネス需要が、都市部の開業数を下支え

東京都・大阪府・愛知県など主要都市圏では、7月～9月を通じて大きな変動なく高水準の開業数が維持されました。特に東京都は746件→622件→711件、大阪府は461件→386件→409件と、各月で一定規模の開業が継続しています。

背景には、人口規模に加え、オフィスワーカー需要、観光需要、日常的な外食利用など、多層的な消費基盤の存在が考えられます。都市部では常時一定の飲食需要が発生しているため、特定要因による急激な増減が起りにくく、月次推移が比較的安定しやすい状況がうかがえます。

地方では“大型案件型”の開業集中が発生

再開発や大型投資が、短期間の開業増加を生む可能性

地方エリアでは、特定月に開業数が大きく増加する地域が複数見られました。例えば、熊本県は8月に106件、鹿児島県は8月に120件、香川県は9月に84件と、単月で突出した動きを示しています。

こうした背景には、大型投資や再開発、商業施設開業など、地域単位の案件集中が影響している可能性があります。特に熊本県では、先の章でも言及した通り、JASM進出を起点とした半導体関連投資や人口流入が地域経済全体を押し上げており、飲食店開業にも波及していると考えられます。都市部に比べ市場規模が小さい地方では、こうした大型案件の影響が月次データに表れやすい特徴があります。

2025年夏、開業の月次変動に見る地域特性

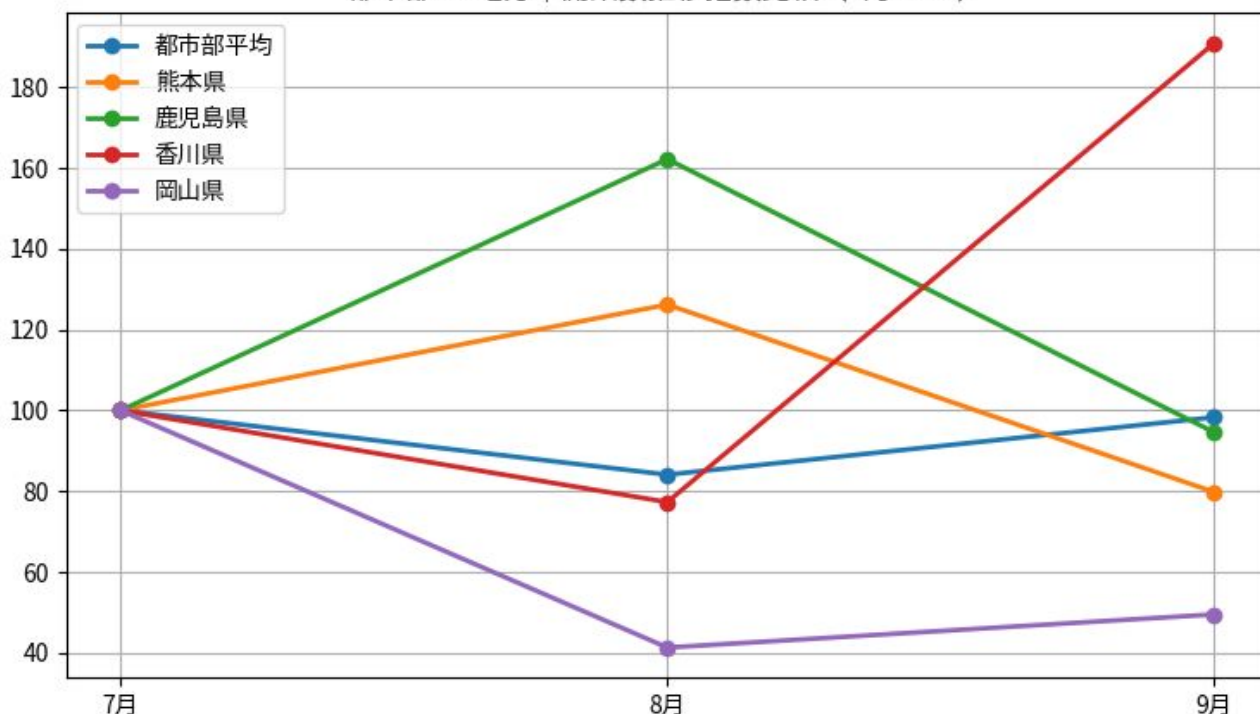
都市部では“開業タイミング分散”が進行

出店件数の多さが、月次変動を平準化している可能性

都市部では開業件数そのものが多く、出店タイミングが特定月に集中しにくい可能性があります。東京都・大阪府・愛知県などでは、毎月一定規模の開業が継続しており、地方エリアで見られるような急激な増減は限定的でした。


背景には、テナント契約時期の分散や内装工事スケジュール、人材確保状況など、複数の出店調整要因があると考えられます。また、競争環境の激しい都市部では、他店舗との開業タイミングを避ける動きも想定されます。その結果、開業が年間を通じて分散し、月次推移が比較的安定して見えている可能性があります。

都市部 vs 地方 | 開業数推移指数比較 (7月=100)



このグラフは、「都市部」(東京都・大阪府・愛知県・福岡県)と、月別の動きに特徴のあった「地方」との推移の差を視覚化したものです。7月の開業数を「100」としたときに、8月、9月の開業数にどれくらいの差が出ていたのかを示しています。

これを見ると、「都市部平均」は7~9月で安定(=開業が分散)しているものの、「地方」の各都道府県では、上下に大きく推移(=開業が集中)していることが分かります。



全国飲食店開業レポート ver7 まとめ

“回復”と“選別”の先にある、新しい飲食市場

2025年の飲食店開業市場は、
“回復”と“変化”が同時に進んだ一年だったと言えるかもしれません。

全国の開業数は大きく伸びたわけではない一方で、
熊本県のように新たな成長エリアが生まれたり、
「お菓子・スイーツ」開業が「ラーメン」を上回るなど、これまでとは異なる動きも数多く見られました。

飲食市場は今、単純な拡大競争ではなく、

「どんな価値を、どこで、誰に届けるか」

が問われる時代へ移り変わりつつあります。

一方で、物価上昇や人材不足、原材料費高騰など、
飲食業界を取り巻く環境は決して楽観できる状況ではありません。

特に小規模事業者にとっては、開業後の運営負担も大きく、
慎重な出店判断が求められる局面が続いています。

それでもなお、多くの新規開業が生まれている背景には、

「新しい場所をつくりたい」
「人が集まる空間を生み出したい」

という、飲食業ならではの強いエネルギーがあるように感じられます。

本レポートが、これから出店を検討するオーナーや投資家、業界関係者の皆さまにとって、市場変化を読み解くヒントとなり、新たな挑戦への後押しにつながれば幸いです。

【データ・レポートに関するお問い合わせ】

株式会社Review(レビュー) 広報
担当:五味川
E-mail:gomikawa@re-view.co.jp
<https://re-view.jp/>

Re:view